

## グループホーム設立のための路上生活者実態調査活動

特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会  
(東京都台東区・墨田区)

### I. 活動の背景と目的

#### 1-1. 背景

山谷地域は、東京の台東区と荒川区をまたがる地域で、日雇労働者の街として知られています。日雇労働者が素泊まりをするための簡易宿泊所（通称：ドヤ）と一般住宅とが混在している街です。1990年代に入り、不況と建築の工法などが変化した影響で日雇労働の需要は激減し、失業による多数の路上生活者が生まれました。「ふるさとの会」は、こうした路上生活者の自立支援を行うために発足しました。1998年からは、NPO法人自立支援センターふるさとの会として、路上生活者が地域で自立するための通過施設である宿泊所の運営を始めました。



炊き出しに並ぶ路上生活者

#### 1-2. 目的

この活動の目的は、2002年度に路上生活者等生活困窮者のためのグループホーム（宿泊所）を設立するに先立ち、地域の路上生活者の実態及びニーズを調査し、施設のサービスプログラムの作成等に活用することです。また、活動を進めていくなかで、施設のサービスプログラムにとどまらず、地域の一員として自立をしていくための“まちづくり”的視点が欠かせないことがわかり、活動自体がまちづくりのきっかけづくりにしていくことも目的に加えて活動を行いました。



自立のための通過施設  
「ふるさと千束館」

### II. 活動の内容

この活動は、「調査活動→プラン作成→評価」の流れで行われました。

#### 2-1. 隅田川沿岸調査活動

隅田川は台東区と墨田区の間を流れしており、河川敷に多くの路上生活者がブルーシートを使った小屋を設置して定住しています。隅田川調査活動では、隅田川河川敷（水神大橋～桜橋付近）で生活する路上生活者の聞き取り調査を4月から7月にかけて行いました。調査により隅田川沿岸のブルーシート小屋で生活している人の実態がわかりました。



隅田川沿岸での調査活動の様子

ブルーシート小屋で生活する人たちの多くは、空き缶や銅線集めなどの都市雑業に従事しており、月に2～3万の収入を得て生活していました。家賃を支払うほどの住宅費ではなく、収入と炊き出しなどを利用して生活しているという状況でした。東京都では、路上生活者自立支援事業として緊急一時保護セン

ターと自立支援センターを設置し、就労可能な路上生活者が就労活動を行う支援を行っています。こうした施設を利用して就労自立を果たした人達がいる一方で、中には日雇労働を長く続けてきたために一般の就労に転換して自立できるという見通しが持てず、確保した都市雑業の仕事とブルーシート小屋を撤去するまでに至らない路上生活者もいることがわかりました。



炊き出しの様子



ふるさとせせらぎ館



ふるさとせせらぎ館外観

## 2-2. 就労支援グループホームプラン作成

調査活動をもとに、検討チームをつくり、以下のプランを作成しました。

1. 2001年12月に開設した「就労支援ホームなづな」を宿泊所の営繕清掃、イベントの設営などをするグループホームとして位置づける。
2. 「就労支援ホームなづな」の仕事の一部を隅田川沿岸等で路上生活をする人達へも提供する。
3. 8月に開設する「ふるさとせせらぎ館」にて、①就労可能であるが常用雇用が難しく、生活保護と合わせて自立を目指す人達と②就労が不可能で介護やメンタルケア等のサービスを受けながら安定した生活を確保する人達へのプログラムとして、就労体験プログラム、識字プログラム、娯楽プログラムなどを導入する。

## 2-3. 隅田川沿岸調査評価

上記のプランの実施について以下の評価を行いました。

1. 就労支援ホームなづなの仕事として、宿泊所の定期清掃、敬老室（高齢者交流センター）の受付・清掃をグループホームや宿泊所の利用者と路上生活者の就労グループに提供。（総計400,000円／月程度）就労グループでの就労をきっかけに、ふるさとの会従業員としての自立、東京都の自立支援事業の利用に繋がったケースが生まれた。一方で、就労機会の提供によってブルーシートでの生活が安定し、日雇労働の形態が継続してしまうケースも生まれてしまった。
2. 8月に就労支援、要介護者支援、精神保健福祉型の複合施設である「ふるさとせせらぎ館」を開設。合計38人の利用者へのプログラムとして、就労体験プログラム、娯楽プログラムが導入された。また、他施設職員により識字プログラムが行われ、就労に繋がったケースが生まれた。（1名）

## 2-4. いろは商店街調査活動

いろは商店街は山谷地域の中心に位置する商店街です。8月～9月にかけて調査を実施しました。調査により、生活保護の生活からスリップし、行き場を失った人や就労可能であってもブルーシート小屋を作るまでの力量がない人が多いことがわかりました。

また、いちは商店街では、アーケードがあるために多くの路上生活者が集まり、商店と路上生活者との間で常に緊張関係がありました。いちは商店街に集まる路上生活者は、隅田川沿岸とは異なり、生活基盤がなく、路上で死亡することも少くない状況でした。また、閉店した商店の前には、夜間だけでなく昼間も定着する路上生活者が増え、さらに顧客が減少するという悪循環になっていることもわかりました。

## 2-5. 在宅支援プログラム・宿泊所プログラム

調査により、以下のニーズに合わせたプログラムが企画されました。

1. 痴呆症などを含めた身寄りのない要介護者・家族のサポートのない知的障害者、精神障害者の在宅支援を「ヘルパーステーションふるさと」と協働して行う体制をつくる。
2. 「まちづくり」とつなげた宿泊所プログラムとして、商店街のイベントに参加するプログラムを導入する。



ふるさとせせらぎ館内部

## 2-6. いちは商店街調査評価

いちは商店街調査活動では以下のように評価を行いました。

1. 2002年11月にいちは商店街に開設された「ヘルパーステーションふるさと」と協働して、宿泊所の入居者や宿泊所を退所して地域で生活する独居の高齢者や障害者が、再び路上生活へ転落することのないよう、路上生活者への訪問相談を行うアウトリーチ活動と地域生活を支えるリビング事業（独居高齢者が平日に通所できるリビングスペースを開放している事業）、訪問介護事業の担当者で構成する「地域支援事業部」を設置。定期的（毎週1回）に情報交換を行う体制が整備された。
2. 宿泊所利用者が、いちは商店街のイベント（福引など）に参加するプログラムを実施。商店街に「路上生活の人達が路上生活から脱却し、地域で自立をすることで、商店街の購買力の向上にもつながる」ということをアピールするきっかけとなった。また、宿泊所利用者やリビング事業の利用者は、イベントに参加することで地域とのつながりを持つことができた。



ヘルパーステーションふるさと

## III 活動の効果及び今後の課題

### 3-1. 活動の効果

2002年度のこの調査活動では、主に隅田川沿岸といちは商店街の路上生活者の実態及びニーズ把握を行うことができました。ふるさとの会では、冬期に毎年調査を行って来ましたが、調査活動→プラン作成→評価といったように、プログラムにつなげる形で行われたのは初めての試みでした。宿泊所の運営は3年前から始め、「ふるさとせせらぎ館」を含めて5つの宿泊所があ



ヘルパーステーションふるさと内部

りますが、路上生活者のニーズや行政機関の支援体制の変化と同時に、宿泊所の機能やプログラムも変化させていく必要があることがこの調査を通じて明らかとなりました。また、この調査活動を通じて路上生活者の人達とのつながりができ、継続して訪問相談ができる体制となりました。そして、いろは商店街では、地域住民や商店とのつながりを持つことができ、路上生活者問題の解決とまちづくりとを結びつけて活動していく方向性を見出すことができました。

### 3-2. 今後の課題

今後は、隅田川沿岸、いろは商店街共に路上生活者への訪問活動を継続していく予定です。実態とニーズ把握と同時に情報提供や相談活動を行い、路上生活から地域生活までのサポートプログラムを充実させていくと共に、グループホーム（宿泊所）のプログラムを常に点検・改善していく体制としていきたいと考えています。

2003年度は、就労支援型の宿泊所或いは住居となる施設を開設していく予定です。隅田川沿岸で生活している就労可能な路上生活者の自立のステップとなるようなプログラムを検討していきたいと思っています。

ふるさとの会では、これからも、「路上生活者が地域の中で住居だけでなくコミュニティの一員としての役割を回復できる」プログラムを目指していきたいと考えています。そのためには、路上生活者の実態だけでなく、コミュニティ全体のニーズを理解していく姿勢が欠かせないことがわかりました。今回の調査活動で生まれたネットワークを活用し、まちづくりの視点を常に取り入れながら活動していきたいと思います。

## <団体活動データ>

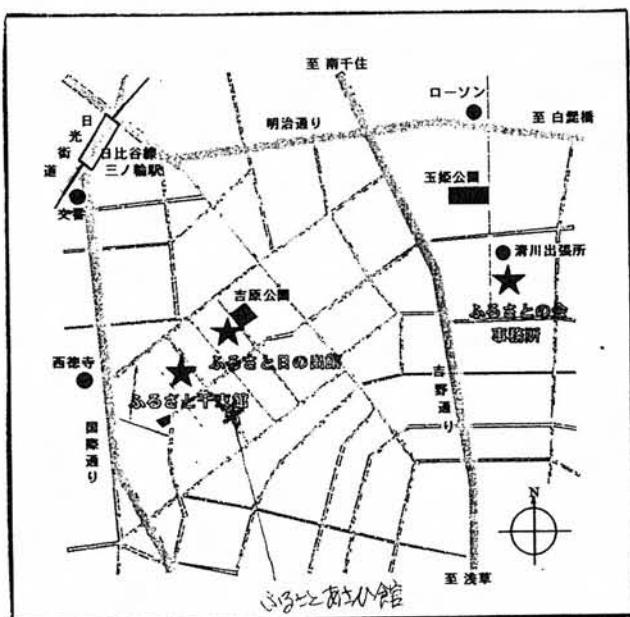
### ■特定非営利活動法人 自立支援センター山谷ふるさとの会

活動テーマ	グループホーム設立のための路上生活者実態調査活動
活動目的	通称山谷と呼ばれる地域において、路上生活者、高齢者、障害者など生活困窮者の地域社会における自立生活支援及び福祉の増進ならびにまちづくりの推進に寄与することを目的とする。
設立年月	1999年10月
代表者名	水田恵
活動地域	東京都台東区・荒川区・台東区
メンバー	42名 NPO職員、会社員、大学教員、学生等

#### ●団体設立の経緯

台東区と荒川区にまたがる通称山谷地区は、日雇労働者が仕事を得る「寄せ場」として長年、高度成長期の日本の経済を支えてきたが、経済状況と労働現場の需要の変化に伴い、様々な理由で路上生活になった人が増え、その高齢化も問題になってきた。こうした中、山谷で労働運動の活動を行ってきたメンバーが中心になって、1990年に、山谷の路上や公園で寝泊りする路上生活者への支援として、毎日曜の炊き出し、夏祭り、年末年始の越年事業などを始めた。その後1999年に特定非営利活動法人格を取得し、宿泊事業などの活動を行っている。

#### ●活動地域図（活動位置図）



(ふるさと日の出館のパンフレットより)

## ●これまでの活動

設立後5年ほどたって、毎日曜の炊き出し等の活動から、路上生活を脱出し自立を支援する活動の必要性を感じ、当財団の助成を受け、生活保護を受給している元路上生活者の共同リビング事業を開始した。それを皮切りに地域の空いているもと旅館や置屋だった建物を借りて、自立への中間・通過施設としての宿泊所を5棟開設している。また、地元の商店街の中に、ヘルパーステーションを開設したり、行政から施設の管理や就労支援の事業を委託するなど、団体の活動の幅を広げている。

### ①宿泊所事業

家のない高齢の生活保護受給者が再び地域社会で自立するための第一歩としての中間・通過施設。地域の住宅や元旅館、空き工場などを借り上げて開設している。

- ・「ふるさと千束館」(1999年10月開設)
- ・「ふるさと日の出館」(2000年8月開設)
- ・「ふるさとあさひ館」(2001年6月開設)
- ・「ふるさとせせらぎ館」(2002年8月開設)

### ②就労支援事業

2001年12月より墨田区向島に「就労支援なづな」を開設。入所者は、掃除当番制などの生活訓練を実施しながら、ふるさとの会運営の宿泊施設等の清掃や営繕などの仕事を担当している。

### ③自立支援センター事業

高齢・疾病・障害などのために就労自活の展望がなく簡易旅館、アパートで生活保護などを利用して生活している高齢者を対象に、共同リビングサービスの提供、食事提供・家事援助・安否確認などデイサービスの提供を行う。

### ④敬老室管理委託事業

2001年4月より社会福祉法人有隣協会の再委託を受け、東京都城北福祉センターハンターハウス・敬老室の管理委託業務を開始した。

### ⑤「ヘルパーステーションふるさと」の開設

2002年1月に地元いは商店街の一角に開設。

また、このほかに、都の自立支援センター墨田寮の生活相談業務、「山谷地域就労自立促進事業」、の受託（ヘルパー取得の支援）をしている。

## ●助成対象活動

施設のサービスプログラムの作成等に活用するために、地域の路上生活者の実態及びニーズを調査した。

- ・隅田川沿岸調査活動
- ・就労支援グループホームプラン作成
- ・いは商店街調査活動



▲ふるさと日の出館

・在宅支援プログラム・宿泊所プログラムの企画作成

**●これからの予定**

路上生活者への訪問、調査活動は、今後も継続し、その結果を宿泊所のプログラムに反映してゆく予定。また、商店街との連携、山谷のまち全体のまちづくりの視点に立った活動をしてゆく。